

E 世界史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はⅠ～Ⅲとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

 (3と解答する場合)

I. 次の文を読み、文中の下線部 1)~18)にそれぞれ対応する下記の設問 1~18に答えよ。
解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

2世紀末以降のユーラシア大陸を見渡せば、東西にそれぞれ独自の文明を形成した地中海世界と東アジア中華世界は、それまで相互にほとんど公式の接触を持たなかったにもか
かわらず、不思議と共鳴しあう運命をたどっていった。¹⁾

地中海世界を統べていたローマ帝国は、次第に国力に^{かげ}翳りを見せ始めた。192年のコンモドゥス帝暗殺以降、皇帝の暗殺と帝位^{さんだつ}篡奪が次第に増える一方、3世紀後半からは、東方のササン朝ペルシアの隆盛や北方のゴート族の活発化もあり、帝国は、各地に軍隊によって²⁾擁立された^{せんしやう}僭称帝の乱立する混乱状態に陥った。他方、東アジア世界の主、漢帝国は、2世紀末に³⁾大規模な農民反乱が起こると急激に衰亡の道をたどり、3世紀の初めには中国各地に軍事政権が割拠する情勢となった。

いったん先に混乱が収まったのは、東アジア中華世界である。265年、魏の将軍が建てた晋朝は、280年には南方の呉を破って中国をふたたび統一した。ローマ帝国では、268年に帝位に就き2度にわたってゴート族を打ち破ったクラウディウス2世、その後継で、北方のガリア帝国、東方で独立を⁴⁾図った⁴⁾パルミラ王国を打ち破ったアウレリアヌス帝の働きにより、ようやく混乱收拾のめどが⁵⁾つき始め、4世紀には⁵⁾コンスタンティヌス朝の安定がもたらされる。

このようにしてそれぞれに回復された統一は、しかし、特に東アジアでごく短命に終わる。311年、匈奴の单于劉淵の子らに率いられた軍隊が晋の都に入り略奪と殺戮の限りを
尽くした反乱⁶⁾以後130年近く、五胡⁷⁾と呼ばれた異民族の王国が興廃を繰り返すことになったからである。漢代末から国内に⁸⁾定住し始めたこれらの異民族は、漢人に使役され農耕に従事するなどしていたが、混乱に乗じて軍を組織し、勢力を強めたものであった。

4世紀後半には、ローマ帝国でも同様の事態が起こった。すでにローマ領内には北辺のゲルマン民族が散発的に国境を越えて平和裡に移住したり、また何よりこの時代に再編された軍隊に兵士として加わったりするようになっていたが、375年、東方より押し寄せた⁹⁾フン族に押され、翌年、西ゴート族がドナウ川を越えて大規模な移住を開始した。378年には⁹⁾彼らへの物資給養を任されたローマの将軍たちの腐敗に反発して西ゴート族は¹⁰⁾蹶起し、¹⁰⁾ウァレンス帝率いるローマ軍を壊滅させた。その後、いったん混乱を收拾した¹¹⁾テオドシウス帝の息子たちの世代以降、ローマ帝国は東西に分かれてそれぞれ皇帝を戴くようになる一方、ゲルマン民族のローマ帝国領内西半部への侵攻は常態化し、「永遠の都」ローマは、410年と455年、それぞれ¹¹⁾西ゴート族とヴァンダル族により、劫略を蒙ることになる。

5世紀以降、ユーラシアの東西で、先進文明世界に侵入して建国した周辺諸民族の国家は、それぞれ先進文明を受け入れ、あるいは先進文明の価値観を覆しながら、先進古代文明の担い手であった地中海沿岸の人々や漢人たちとそれぞれ同化していく。なかでも、この時代、東西世界共鳴の事例として注目すべきは、両世界で、統治者と被治者を問わず彼らに世界宗教が広まり、あるいは積極的に受け入れられたことであろう。充分効率的な支配組織を持たなかったゲルマン諸王国では、当初ローマ帝国の貴族層の力を借りて統治を進めたが、やがてキリスト教を積極的に受け入れ、教会の組織を用いて支配するようになる。中国では、五胡十六国時代に続いてあらわれた南北朝対峙の形勢の下、¹³⁾北朝諸王朝は圧倒的な数の漢人貴族たちの統治能力を最大限利用し続けたが、北でも南でもいくつかの王朝は仏教に深く帰依した。たとえば6世紀初頭には北魏の首都洛陽は300の条坊と1367の伽藍を誇り、またやや遅れて梁の武帝時代には、のちに「南朝四百八十寺」とうたわれる仏教隆盛の基礎が築かれた。¹⁴⁾¹⁵⁾¹⁶⁾

こうした宗教上の変化は、戦乱や国家の興廃が相次ぐ当時の人々の心の中で、現世より死後の世界に救済を願う個人主義的な精神が芽生えたことの反映であったかもしれない。いずれにせよ、そうした共通の精神的基礎は、政治的混乱と分裂の時代にあっても、人々の目を世界に向けて開かしめ、人々の心を宗教的世界と繋いでいた。7世紀以降、新たに出現したイスラーム諸国家、中国に成立した唐、さらに時代を下ってからの中世ヨーロッパに見られるような外交政策の枠組みはそのような宗教世界を単位として成り立ち、展開することになる。これは、世界史における中世、あるいはそう言って語弊があるならば、古代的世界秩序と異なる新しい秩序の始まりであったといえよう。¹⁷⁾¹⁸⁾

- 2世紀後半、東西接触の痕跡が史料にあらわれる。大秦王安敦に派遣されたと名乗る使節が到着したとする記事だが、彼らが到着した漢の郡はどれか、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
 - 交趾郡
 - 南海郡
 - 日南郡
 - 楽浪郡
- この国を建てた王の名前はどれか、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
 - アルダシール1世
 - シャープール1世
 - ダレイオス1世
 - ホスロー1世

3. この農民反乱はどれか、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 紅巾の乱 b. 黄巾の乱 c. 赤眉の乱 d. 陳勝・呉広の乱
4. この国はもともと隊商都市であった。この都市は現在のどの国にあるか、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. イスラエル b. イラク c. シリア d. トルコ
5. この皇帝が新たに首都に定めた都市の旧名をしるせ。
6. 前 3 世紀末から前 2 世紀初頭、漢の高祖を包圍するなど、匈奴の全盛期を築いた単于の名をしるせ。
7. この反乱の名をしるせ。
8. 五胡に含まれない異民族はどれか、次の a～d から 2つ選び、その記号を左欄に 1つ、右欄に 1つマークせよ。順序は問わない。
a. 羯 b. 柔然 c. 鮮卑 d. 吐谷渾
9. この民族をローマとゲルマン民族の連合軍が破った戦いの名をしるせ。
10. この皇帝のもと、381年に公会議が開かれ、三位一体の教説が正統教義の地位を得る。この説の確立者であったアレクサンドリア司教の名をしるせ。
11. この民族が最終的に定住したのはどこか、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. イタリア半島 b. イベリア半島 c. ガリア d. 北アフリカ
12. 中華世界の先進文明を受け入れた朝鮮半島では、やがて三国が有力となる。そのうち馬韓を統一した国の名をしるせ。
13. フランク王国では、教会は収税組織でもあった。この時代に教会が課した税のうちもっとも主要なものを何と呼ぶか、その名をしるせ。
14. 浄土宗の始祖となった東晋の僧の名をしるせ。
15. この南に位置する大石窟寺院がある地名をしるせ。
16. この人物は50年近く治め、南朝に安定をもたらした皇帝として知られるが、前王朝から禪譲を受けてこの王朝を開いている。その前王朝はどれか、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 齊 b. 宋 c. 陳 d. 東晋
17. この時代には世俗の教養文化として儒学が再び力を取り戻し、その教養を問う試験が政治の世界での成功を大きく左右するようになる。この試験のテキストとされた『五経正義』の撰者で『隋史』の著者でもある人物の名をしるせ。

18. 10世紀以降の神聖ローマ帝国によるイタリア政策はその代表的事例である。イタリア政策について説明した次の文の空所(イ)・(ロ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

「イタリア政策とは神聖ローマ皇帝が(イ)政策の貫徹を目指し、教皇の保護を名目に行ったイタリア干渉政策である。教皇を屈服させ、聖界を俗権の風下に置こうとしたが、(ロ)闘争で教皇に敗れ、政策の後退を余儀なくされた。」

II. 次の文を読み、文中の下線部1)～8)にそれぞれ対応する下記の設問1～8に答えよ。

解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

古代から東西交易や文明交流の経路となってきた東南アジアは、近代以降、さまざまな外来勢力の進入にさらされてきた。たとえば1世紀末、インドや中国との活発な交流から東南アジア最古ともいわれる国が生まれたメコン川下流域には、19世紀にフランスが植民¹⁾地進出し、フランス領インドシナ連邦を成立させた。また、銅鼓など独特の青銅器を特徴とする文化の起²⁾こった現在のベトナム北部は、1970年代末、³⁾ベトナムと政治的に対立した中国が軍事攻撃をおこない、中越戦争が起こった地域を含んでいる。第二次世界大戦後、祖国独立から南北統一への道を指導したベトナムのホー＝チ＝ミンは、かねてから、強大な植民地支配者だった西洋のフランスよりも、むしろ古来の隣人である中国からの影響力を警戒するよう、同志たちをいましめていたことが知られている。

一方、東南アジアにはインドからの歴史的影響も大きい。たとえば前段で触れた東南アジア最古ともいわれる国は、神話によればインドから来航したバラモンが現地の女性と結婚して国造りをおこなったと伝えられる。また4世紀から5世紀⁵⁾には東南アジアの広い範囲で「インド化」と呼ばれる現象が始まり、ヒンドゥー教と大乘仏教をはじめインド式建築様式なども普及した。⁶⁾6世紀に建国されたカンボジアもヒンドゥー教の影響を強く受け、インド化の象徴ともいえるベキアンコール＝ワットなどの建築物を遺した。ベトナムでは、中部から南部に勢力を誇ったチャンパーが17世紀前半までインド文明の影響を体現する一方、北部では、11世紀初めに成立した大越国の李朝と、その後⁷⁾に成立した陳朝が、中国文明の影響をあらわにした。陳朝ではベトナム語を筆記するために漢字をもとに独自に開発した文字を国字にするなど、文化面での独立性も誇示した。

なお、ベトナムとカンボジアでは、1960年代から70年代にかけ、それぞれアメリカ合衆国からの影響を排除しようとする激しい民族運動と内戦が展開されたが、70年代後半になると互いに政治的に対立し、ベトナムがカンボジアに侵攻した。⁸⁾これが中国からの介入を呼び、中越戦争の原因となったのである。

1. この国はどれか、次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 真臘 b. 扶南 c. 南詔 d. ピュー
2. フランス領インドシナ連邦に1899年に編入された国の名をしるせ。
3. この文化の名をしるせ。

4. ホー＝チ＝ミンは、1920年代、中国の広東で反フランス運動の組織を結成した。この組織を次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. インドシナ共産党 b. ベトナム国民党
c. ベトナム青年革命同志会 d. ベトナム独立同盟
5. バラモンは、古代インドの伝統的な身分制度における四身分の最高位に当たる。この身分制度の名をしるせ。
6. この現象の一つのあらわれとして、のちに古マタラム国がジャワ島中部に建てたヒンドゥー教寺院群の名をしるせ。
7. この文字を何と呼ぶか。その名を漢字 2 字でしるせ。
8. この結果、崩壊することになったカンボジアの政権の最高指導者は誰か。その名をしるせ。

Ⅲ. 次の文を読み、下記の設問 A・B に答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

近年、いわゆる「ジャスミン革命」を端緒に民主化の激しい動きが連鎖的に巻き起こったイスラーム圏の北アフリカ地域は、もともと第二次世界大戦後、活発な植民地独立運動の舞台となったところでもある。1955年にインドネシアで開かれたアジア＝アフリカ会議は開催地の名をとって（イ）会議と通称されているが、この成功を機に北アフリカではスーダン、モロッコ、チュニジアが相次いで独立を果たした。1960年には大陸全土で17¹⁾カ国が一挙に新興独立国となり、この年は「アフリカの年」と呼ばれた。1963年には植民地主義との対決を掲げた（ロ）が設立され、アフリカ諸国の連帯を強く訴えかけた。

他方、同時期中東地域でも複雑な動きが活発化した。イギリスによるパレスチナの（ハ）の終了をにらんで、1947年に国際連合がパレスチナ分割案を提示し、これをもとに翌48年、イスラエルが建国を宣言した。イスラーム諸国では欧米の石油資本と結びついて利権を得る国王や特権階級が一带を支配していたが、民主化の動きが次第に強まった。エジプトではナセルに率いられた自由将校団が軍事クーデタで王政を廃止し、共和政に改めて大胆な土地改革とイギリス軍の撤退を実現させた。彼はインドのネルー、中国の周恩来らとともにいわゆる第三世界（第三勢力）の非同盟・中立主義²⁾に賛同する立場を鮮明にした³⁾が、ナセルの動きを敵視したイギリス・フランス両国はイスラエルとともにエジプトに対して軍事行動を起こした。しかしこの第2次中東戦争では仕掛けた側のもくろみは達成されず、一連の動きの影響は、1958年7月の（ニ）における王政打倒など、周辺諸国にまで大きく及んだ。特に1964年、イスラエルに奪われた土地と権利回復のために結成された（ホ）は、非国家組織ながら、その後長らく中東情勢を左右する大きな存在感を發揮した。

その後、中東地域ではイギリス・フランスに代わってアメリカ合衆国がしだいに影響力を強め、アラブ諸国における親米政権とのつながりを通して安定化をはかったが、1979年、中東地域でとりわけ西洋化の進んでいたイランで王政が打倒され、イラン＝イスラーム共和国⁴⁾が成立した。これ以後、中東地域はアメリカにとって対応に苦慮する地域のひとつとなったのである。

A. 文中の空所(イ)～(ホ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部 1)～4) にそれぞれ対応する次の問 1～4 に答えよ。

1. この17カ国に属さない国を、次の a～f から 2つ選び、その記号を左欄に1つ、右欄に1つマークせよ。順序は問わない。
a. ガーナ b. ソマリア c. チャド
d. ナイジェリア e. ニジェール f. リビア
2. イギリスとの度重なる戦争を経て、1919年、イギリスの保護国の立場を脱して独立を宣言した国を、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. アフガニスタン b. イエメン c. クウェート d. ヨルダン
3. 1954年の彼らの会談で発表された「平和五原則」に含まれない理念はどれか、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 基本的人権の尊重 b. 内政不干涉
c. 平和的共存 d. 領土保全と主権の尊重
4. こののちイランに帰国し、イラン＝イスラーム共和国を率いた宗教指導者の名をしるせ。

【以下余白】

